

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅰ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)		
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか		
	3	就職活動での身だしなみ	5-1～5-1(実践編) 身だしなみ		
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い		
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします		
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解		
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す		
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)		
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)		
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る		
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)		
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	21	企業訪問	5-1,5-2		
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る		
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
28	期末試験(履歴書)	履歴書提出			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅰ		指導担当者名	仲井 ひかる	
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事			
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	CGについての基礎的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 11月に行われるCG検定ベーシックの取得を目標とする。 基礎的CGの知識習得を目的とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・入門CGデザイン(CGARTS)・問題集(CGARTS)				
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習				
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション		授業の目的、使用教材評価基準説明、P1～21	
	2	CGとは、表現の基礎		P22～39	
	3	2次元CG		P40～49	
	4	写真撮影とレタッチ		P50～57	
	5	キーワードまとめ		P57～68	
	6	小テスト1		小テスト	
	7	3次元CG「モデリング～マッピング」		P69～88	
	8	3次元CG「アニメーション」		P88～99	
	9	3次元CG「ライティング」		P100～108	
	10	3次元CG「レンダリング～編集」		P109～126	
	11	小テスト2		小テスト	
	12	技術の基礎		P127～146	
	13	知的財産権		P147～154	
	14	期末試験		テキスト全体を範囲としたテスト40問	
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論 I		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	CGについての基礎的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 11月に行われるCG検定ベーシックの取得を目標とする。 基礎的CGの知識習得を目的とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・入門CGデザイン(CGARTS)・問題集(CGARTS)					
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	前期復習		テキスト全体を総復習		
	16	2019年前期問題		過去問題回答と解説		
	17	2019年後期問題		過去問題回答と解説		
	18	2020年前期問題		過去問題回答と解説		
	19	2020年後期問題		過去問題回答と解説		
	20	2021年前期問題		過去問題回答と解説		
	21	2021年後期問題		過去問題回答と解説		
	22	2023年前期問題		過去問題回答と解説		
	23	2018年前期問題		過去問題回答と解説		
	24	2021年後期問題		過去問題回答と解説		
	25	2022年前期問題		過去問題回答と解説		
	26	2022年後期問題		過去問題回答と解説		
27	個別指導		個人別弱点特攻授業			
28	直前模試					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習 I		指導担当者名	大槻 晃士		
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	3DCGの基礎的実習で3DCGについて習得する事を目標とする。 〈通年〉DCCツールであるAutodesk MAYAの基本を習得し、ローポリゴンモデリングができるようになることを目標とする。 〈前期〉Autodesk Mayaに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。 〈後期〉少ないポリゴン数で、実在する物体を再現できるようになることを目標とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・Autodesk Maya・AdobeCC Photoshop・webの画像					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーションMaya初期設定 & 操作説明【制作】ステージレイアウト		・自己紹介、授業内容等の説明・プリファンス、UI、ディスプレイ設定		
	2	MAYAの基本操作		・オブジェクト作成・基本的なツールの習得1		
	3	プリミティブモデリング		・基本的なツールの習得2		
	4	CSGモデリング		・基本的なツールの習得3・マテリアル設定		
	5	レイアウト		・ポージング(ペARENT化、ピボットの移動など)・ライティング、レンダリング		
	6	UV展開テクスチャマッピング		以降授業では、AdobeCC Photoshop、ペンタブレットを使用・UV展開：平面マッピング		
	7	3Dテクスチャペイントガラス、金属の質感		・UV展開(境目の処理)・aiStandardシェーダで金属・ガラスの質感を学習・Arnoldレンダリング		
	8	ローポリゴンモデリング		・参考資料、イメージ画像の収集について		
	9	UV展開		・UV展開：円柱マッピング		
	10	資料集め		・アンティーク調モデリング(ティーカップ、洋書、古鍵、机など)		
	11	実制作		・モデリング		
	12	レイアウト		・レイアウト		
	13	ライティング		・ライティング		
	14	【前期期末制作】		レンダリング。画像とモデルを提出。		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習 I		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	3DCGの基礎的実習で3DCGについて習得する事を目標とする。 〈通年〉DCCツールであるAutodesk MAYAの基本を習得し、ローポリゴンモデリングができるようになることを目標とする。 〈前期〉Autodesk Mayaに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。 〈後期〉少ないポリゴン数で、実在する物体を再現できるようになることを目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・Autodesk Maya・AdobeCC Photoshop・webの画像				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	プロダクトモデリング	・身近なプロダクトのモデリング		
	16	ハードサーフェスモデリング	・身近なプロダクトのモデリングとライティング		
	17	ライティングとレンダリング	・ライティングとArnoldレンダリング		
	18	ハードサーフェスモデリング	・有機体ではないプロダクトのモデリング		
	19	ライティングとレンダリング	・ライト設定とレンダリング		
	20	モジュラーアセット	単位ごとに区切られていて、まとめると違うものが出来上がるモデリング。		
	21	少ないポリゴンでのモデリング	1つ目完成。少ないポリゴン数での制作を心掛ける。		
	22	テイストの統一	2つ目完成。1つ目との関連性を持たせて制作する。		
	23	モデルの組み込み	3~4つ目完成。1, 2個目と組み合わせ、一つの作品に仕上げる。		
	24	ゲームアセット制作	・ゲームを意識した制限のあるステージ制作		
	25	プロップ制作	ステージの小物制作		
	26	レイアウト	ステージ全体を制作し、プロップを配置。		
	27	ライティングとレンダリング	レイアウト+ライティング。		
28	【後期期末制作】	レンダリング。CG画像とモデル提出。			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習Ⅰ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator・Autodesk MAYA				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	基礎知識	フレームレート、ピボットポイント		
	3	Ps基礎	Photoshopの基本操作、画像処理		
	4	Ps,Ai基礎	Photoshopでのマスク制作、Illustratorの基本操作、パスファインダー		
	5	AE基礎。画面説明、基本操作	画面説明、基本操作		
	6	AE基礎。各種ツール説明	各種ツール説明		
	7	AE基礎。テキストツール、キーフレームアニメーション	テキストツール、キーフレームアニメーション		
	8	AE基礎。各種パラメーター説明	各種パラメーター説明		
	9	カメラ設定	ビューポートの設定		
	10	キーフレームアニメーション	基本図形を使ったキーフレームアニメーション		
	11	テキストアニメーション	テキストのパラメータを設定しアニメーションさせる。		
	12	3Dレイヤー、シャイレイヤ	レイヤーの様々な効果について		
	13	タグ付け	レイヤーカラーの割り当て、作業効率アップをさせる。		
	14	期末試験	サンプル動画の再現		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習 I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator・Autodesk MAYA			
授業外学習の方法	自宅での実習復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期復習	基本操作の確認	
	16	ラインアニメーション	線のアニメーション	
	17	トラッキング	動画から位置情報を吸い出し、別オブジェクトに設定する。	
	18	パーティクル	簡単なエフェクト制作。	
	19	パペットツール	1枚のイラストからアニメーションを生成する。	
	20	エクスペリション	簡易スクリプトを理解し、プロシージャルなアニメーション制作をする。	
	21	実践課題	illustratorの素材をバラバラにしてアニメーションを生成する。	
	22	実践課題	実制作	
	23	実践課題	発表、提出	
	24	チーム制作	テーマ発表、チーム発表、企画開始	
	25	絵コンテプレゼン	絵コンテの合評。	
	26	制作	アセット制作	
	27	編集	コンボジット	
28	期末試験	制作発表、提出。		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・MOSの基礎的実習でMOSについて習得する事を目標とする。 ・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	過去問題復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	現状のポートフォリオの合評		
	2	第1章 Wordの基礎知識1	Step1 Wordの概要Step2 Wordを起動するStep3 文書を開く		
	3	第1章 Wordの基礎知識2	Step4 Wordの画面構成Step5 文書を閉じるStep6 Wordを終了する		
	4	第2章 文字の入力2	Step1 新しい文書を作成するStep2 IMEを設定するStep3 文字を入力する		
	5	第2章 文字の入力3	Step4 文字を変換するStep5 文章を変換するStep6 文書を保存する		
	6	第3章 文書の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ページのレイアウトを設定するStep3 文章を入力する		
	7	第3章 文書の作成2	Step4 範囲を選択するStep5 文字を削除・挿入するStep6 文字をコピー・移動するStep7 文章の体裁を整えるStep8 文書を印刷する		
	8	第3章 文書の作成3	練習問題		
	9	第4章 表の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 表を作成するStep3 表の範囲を選択する		
	10	第4章 表の作成2	Step4 表のレイアウトを変更するStep5 表に書式を設定するStep6 表にスタイルを適用するStep7 水平線を挿入する		
	11	第4章 表の作成3	練習問題		
	12	第5章 グラフィック機能の利用1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ワードアートを挿入するStep3 画像を挿入する		
	13	第5章 グラフィック機能の利用2	Step4 文字の効果を設定するStep5 ページ罫線を設定する練習問題		
	14	Word試験	外部受験		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・MOSの基礎的実習でMOSについて習得する事を目標とする。 ・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	第1章 Excelの基礎知識1	Step1 Excelの概要Step2 Excelを起動するStep3 ブックを開くStep4 Excelの画面構成	
	16	第1章 Excelの基礎知識2	Step5 ブックを操作するStep6 ブックを閉じるStep7 Excelを終了する	
	17	第2章 データの入力1	Step1 新しいブックを作成するStep2 データを入力するStep3 データを編集するStep4 セル範囲を選択するStep5 ブックを保存するStep6 オートフィルを利用する	
	18	第2章 データの入力2	練習問題	
	19	第3章 表の作成1	Step1 作成するブックを確認するStep2 関数を入力するStep3 セルを参照するStep4 表にレイアウトを設定する	
	20	第3章 表の作成2	Step5 データを装飾するStep6 配置を調整するStep7 列の幅を変更するStep8 行を挿入・削除するStep9 表を印刷する	
	21	第3章 表の作成3	練習問題	
	22	第4章 グラフの作成1	Step1 作成するグラフを確認するStep2 グラフ機能の概要Step3 円グラフを作成するStep4 縦棒グラフを作成する	
	23	第4章 グラフの作成2	練習問題	
	24	第5章 データベースの利用1	Step1 操作するデータベースを確認するStep2 データベース機能の概要Step3 データを並べ替えるStep4 データを抽出する	
	25	第5章 データベースの利用2	練習問題	
	26	過去問題1	MOS模試1	
	27	過去問題2	MOS模試2	
28	Excel試験	外部受験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作実習Ⅰ		指導担当者名	渡邊 惇基	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	キャラクターデザインの基礎的実習でキャラクターデザインについて習得する事を目標とする。 キャラクターのデザイン、描き方をまなぶ。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	オリジナル教材のプリント配布				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	年間インフォメーション 指示書の読み解き方 ファンアートと仕事絵の違い		
	2	イラスト制作のコツ	イラストポートフォリオを作る12のコツ、チーム制作で知っておくべき7ヶ条		
	3	色彩基礎	初心者のための色彩講座、絵を上達させる3つのイラストデッサンのコツ		
	4	アタリの取り方	アタリの取り方講座、パーツのイメージから考える！キャラクターを描き分ける方法		
	5	喜怒哀楽	ポーズでキャラ性を描き分ける！性格別の喜怒哀楽		
	6	顔の描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！顔の描き方テクニック-実践編-		
	7	ポーズの描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！ポーズの描き方テクニック編		
	8	全身の描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！全身の描き方テクニック-実践編-		
	9	構図の基礎	イラストが映える黄金比は存在する！覚えておきたい構図の基本3選		
	10	仕上げテク。構図編	簡単にイラストを上手く見せるテクニック-構図編-		
	11	仕上げテク。ポーズ編	簡単にイラストを上手く見せるテクニック -ポーズ編-		
	12	多人数構図	多人数をどうやって配置する？複数キャラクターの構図集		
	13	デフォルメキャラクタ	デフォルメキャラクターの描き方		
	14	期末試験	喜怒哀楽だけじゃ足りない！？豊富な表情バリエーションの作り方		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作実習Ⅰ			指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	キャラクターデザインの基礎的実習でキャラクターデザインについて習得する事を目標とする。 キャラクターのデザイン、描き方をまなぶ。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	オリジナル教材のプリント配布				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	顔の描き方	「顔の描き方」をマスターする7つのポイント		
	16	光と影	基礎力UP！立体感を表現する際に必要な2種類の光を覚えよう		
	17	立体感の表現法	OK例とNG例で理解度UP！線画で立体感を表現する3つのコツ		
	18	配色	配色の比率は70:25:5！キャラクター配色の決め方 基本編		
	19	陰影	悪者は下からライトアップ！印象を変える影の付け方		
	20	デジタル彩色	厳選！デジタル絵で覚えておきたい塗り方4種類		
	21	イラストアイデアの出し方	テーマ:「夏」イラストのアイデアのヒント		
	22	擬人化	モチーフの魅力を引き出す擬人化キャラの描き方		
	23	人物のアタリ	輪切りにするとよく分かる！人物のアタリの取り方のコツ		
	24	顔の男女描き分け	髪型で誤魔化さない！男女の顔の描き分け講座		
	25	イラストの仕上げ	密度の高め方を理解！豪華なイラストを描く3つのコツ		
	26	ポージング応用	棒立ちからの脱却！キャラの魅力を引き出すポージングのコツ4選		
27	進化描き分け	ゲームキャラの「進化」で考える！イラストを豪華に魅せる5つのコツ			
28	期末試験	恋愛の「ドキッ」と感も出せる！？キャラクターが生きる構図の作り方			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ゲームエンジン実習Ⅰ		指導担当者名	溝井 光司		
実務経験	有	ゲームアプリ制作業務に従事、9年目継続中				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ゲームエンジンの基礎的実習でゲームエンジンについて習得する事を目標とする。 Unityのビジュアル言語を通してプログラミングの基礎を学び、ゲームエンジンを用いたコンテンツ制作についての足がかりを作る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Unity, Unity[超]入門					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		ゲームエンジンって何？ Unityインストール状況確認		
	2	Unityの基本操作		教科書 Chapter2 玉転がしゲーム		
	3	課題制作		作成したゲームの書き出し方とデータ提出方法の確認		
	4	課題制作		作成したゲームの書き出し方とデータ提出方法の確認		
	5	ビジュアル言語の基本2		変数とUI コインを数える		
	6	ビジュアル言語の基本3		繰り返し文とインスタンスの作成 コインを自動で出現させる		
	7	課題制作		個別指導 コイン集めゲームの制作		
	8	課題制作		個別指導 コイン集めゲームの提出		
	9	物理演算の利用1		教科書 Chapter6 ニワトリ飛ばしゲーム Ray Trigger Joint		
	10	物理演算の利用2		射撃ゲームへの改造 CharacterController		
	11	物理演算の利用3		Linecastを使用した視界判定の作成		
	12	課題制作		個別指導 射撃ゲームの制作		
	13	前期期末		個別指導 射撃ゲームの提出		
	14	前期フィードバック		個別フィードバック		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ゲームエンジン実習 I		指導担当者名	溝井 光司		
実務経験	有	ゲームアプリ制作業務に従事、9年目継続中				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ゲームエンジンの基礎的実習でゲームエンジンについて習得する事を目標とする。 Unityのビジュアル言語を通してプログラミングの基礎を学び、ゲームエンジンを用いたコンテンツ制作についての足がかりを作る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Unity, Unity[超]入門					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	前期振り返り		前期内容の確認		
	16	2Dゲーム制作1		教科書 Chapter4 回避ゲーム		
	17	課題制作		個別指導 回避ゲームの提出		
	18	2Dゲーム制作2		教科書 Chapter5 ブロック崩し		
	19	課題制作		個別指導 ブロック崩しの提出		
	20	アニメーションとオーディオ		アニメーションとオーディオの作成と再生		
	21	キャラクター制御1		キャラクターモデルのインポートとセットアップ		
	22	キャラクター制御2		スクリプトによるキャラクター制御		
	23	NavMesh		経路探索による敵キャラクターAI作成		
	24	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	25	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	26	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	27	後期期末		個別指導 3人称アクションゲームの提出		
	28	後期フィードバック		個別フィードバック		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	描画実習Ⅰ		指導担当者名	服部 真奈美		
実務経験	有	アニメ制作業務に32年間従事、現在はフリーで継続				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義:		演習:		実習: ○ 実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	物や人物の形を的確にとらえて、それを実際に自由に描けるようにする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	①静物、石膏デッサンの写真モチーフ(フリー素材利用)②A.ルーミス絵画技法書					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		講師と学生の自己紹介、授業の目標、用具や用語確認		
	2	静物デッサン1		初めてのデッサン(立方体や円錐形など幾何学モチーフ)、線の描き方について		
	3	静物デッサン2		球体のデッサン		
	4	静物デッサン3		果物(単品、フリーの写真素材利用)のデッサン1		
	5	静物デッサン4		果物(単品、フリーの写真素材利用)のデッサン2		
	6	静物デッサン5		果物(複数、食器などどの組み合わせ)のデッサン1		
	7	静物デッサン6		果物(複数、食器などどの組み合わせ)のデッサン2		
	8	静物デッサン7		石膏(写真)デッサンⅠ		
	9	静物デッサン8		石膏(写真)デッサンⅠ		
	10	静物デッサン9		石膏(写真)デッサンⅡ		
	11	静物デッサン10		石膏(写真)デッサンⅡ		
	12	静物デッサン11		石膏(写真)デッサン(全身)		
	13	静物デッサン12		石膏(写真)デッサン(全身)		
	14	前期期末制作、静物デッサン13		石膏(写真)デッサン(全身)		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	描画実習 I		指導担当者名	服部 真奈美		
実務経験	有	アニメ制作業務に32年間従事、現在はフリーで継続				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	物や人物の形を的確にとらえて、それを実際に自由に描けるようにする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	①静物、石膏デッサンの写真モチーフ(フリー素材利用)②A.ルーマス絵画技法書					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	人物の描き方1		顔の描き方。目鼻等の位置の基本的なラインの取り方。基本に法って様々な角度で顔を描いてみる		
	16	人物の描き方2		様々な角度の顔と表情を描く1		
	17	人物の描き方3		様々な角度の顔と表情を描く2		
	18	人物の描き方4		手足の描き方。指の付き方や動きの基本		
	19	人物の描き方5		全身の骨格と筋肉の付き方を理解する。		
	20	パースについて1		動きを感じさせる人物の描き方		
	21	パースについて2		一点透視、二点透視、三点透視について		
	22	パースについて3		パース線を引き、その上に立方体を配置する		
	23	パースについて4		パース線を引き、その上に人物(立像)を配置する		
	24	パースについて5		パース上に物や人物を配置する		
	25	パースについて6		パース上に物や人物を配置する		
	26	パース&人物1		二点以上の透視を使った人物の描き方		
	27	パース&人物2		様々なパースを引き、そこに物や人物を配置する		
28	後期期末制作、パース&人物3		様々なパースを引き、そこに物や人物を配置する			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅰ		指導担当者名	仲井　ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84　時間			週時間数	3　時間	
学習到達目標	・ポートフォリオの基礎的実習でポートフォリオについて習得する事を目標とする。 ・ポートフォリオの基礎概念の習得。 ・ポートフォリオ用の作品制作の考え方の習得 ・ポートフォリオの基本的な枠の制作～ほぼ完成					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習					
学期	ターム	項　目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		年間カリキュラムの説明		
	2	自己分析		自らのスキルを棚卸し		
	3	企業分析		受けたい企業を検索		
	4	作品傾向分析		自己作品の作るべき方向について分析		
	5	作品制作1		進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作		
	6	作品制作1中間発表		進捗発表		
	7	作品制作1		進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作		
	8	作品制作1　発表		作品を発表し、修正ポイントについてレビュー		
	9	作品制作2		1作品目のレビューを踏まえて制作		
	10	作品制作2		進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作		
	11	作品制作2中間発表		進捗発表		
	12	作品制作2		進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作		
	13	期末プレゼン		前期に制作した作品を全て提出		
	14	期末レビュー		前期制作作品のレビュー		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習 I		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	・ポートフォリオの基礎的実習でポートフォリオについて習得する事を目標とする。 ・ポートフォリオの基礎概念の習得。 ・ポートフォリオ用の作品制作の考え方の習得 ・ポートフォリオの基本的な枠の制作～ほぼ完成					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	制作法		受かるポートフォリオ、落ちるポートフォリオ		
	16	制作法		ポートフォリオの基本的な考え方、制作手順		
	17	レイアウト		レイアウトの基本グリッドシステム		
	18	Ai復習		基本の4構図、クリッピングマスク		
	19	作品足切り		入れるべき作品、入れるべきではない作品		
	20	表紙、プロフィール		一般的なレイアウトとコメント内容		
	21	小テスト		ポートフォリオの制作手順等についての小テスト		
	22	A/D変換		ポートフォリオに入れる用のアナログ作品をデジタル化する。		
	23	データ管理		ポートフォリオに入れようと考えている作品をフォルダにまとめる		
	24	レイアウト		レイアウトの基本グリッドシステム		
	25	Ai復習		基本の4構図、クリッピングマスク		
	26	実製作		ポートフォリオの枠を制作		
	27	期末試験		ポートフォリオの枠を完成させ、提出		
28	期末振り返り		第一弾ポートフォリオの枠についてのレビュー			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習			指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	28 時間			週時間数	時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト				
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く		
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する		
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する		
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる		
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く		
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する		
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応		
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性		
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション		
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応		
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	180 時間		週時間数	時間
学習到達目標	・1年生:1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史		
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理		
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2		
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算		
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	21	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	22	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	23	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	24	個別指導1	書類添削、面接指導		
	25	個別指導2	書類添削、面接指導		
	26	個別指導3	書類添削、面接指導		
	27	個別指導4	書類添削、面接指導		
28	個別指導5	書類添削、面接指導			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅱ			指導担当者名	橋本 若奈
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事			
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：○		演習：	実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	CGについての応用的概論でCGIに関する知識を習得する事を目標とする。 〈通年〉CGARTS協会 CGエンジニア検定ベーシックの合格を目標とする。 〈前期〉CG・画像処理などの基礎知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・CGARTS協会 ビジュアル情報処理				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション, Chapter1①		ディジタルカメラモデル	
	2	Chapter1②		ディジタルカメラモデル	
	3	Chapter2①		モデリング	
	4	Chapter2②		モデリング	
	5	Chapter3①		レンダリング	
	6	Chapter3②		レンダリング	
	7	Chapter4①		アニメーション	
	8	Chapter4②		アニメーション	
	9	Chapter5①		画像の濃淡返還とフィルタリング処理	
	10	Chapter5②		画像の濃淡返還とフィルタリング処理	
	11	Chapter6①		画像の解析	
	12	Chapter6②		画像の解析	
	13	【期末模擬問題】		各Chapter復習のための小テスト	
	14	【前期期末試験】		Chapter1～6を範囲として期末試験	
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅱ		指導担当者名	橋本 若奈		
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	CGについての応用的概論でCGIに関する知識を習得する事を目標とする。 〈通年〉CGARTS協会 CGエンジニア検定ベーシックの合格を目標とする。 〈前期〉CG・画像処理などの基礎知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・CGARTS協会 ビジュアル情報処理					
授業外学習の方法	教科書復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	Chapter7		パターン・特徴の検出とパターン認識		
	16	Chapter8		シーンの復元		
	17	Chapter9		ビジュアル情報処理システム		
	18	知的財産権, 2018年後期問題		知的財産権の復習、過去問題回答と解説		
	19	2019前期問題		過去問題回答と解説		
	20	2019後期問題		過去問題回答と解説		
	21	2020後期問題		過去問題回答と解説		
	22	2021前期問題		過去問題回答と解説		
	23	2021後期問題		過去問題回答と解説		
	24	2022前期問題		過去問題回答と解説		
	25	2022後期問題		過去問題回答と解説		
	26	2023前期問題		過去問題回答と解説		
	27	個別指導		個人別弱点特攻授業		
28	直前模試		キーワードのおさらい、模擬試験			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ゲームエンジン実習Ⅱ		指導担当者名	溝井 光司		
実務経験	有	ゲームアプリ制作業務に従事、9年目継続中				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ゲームエンジンの応用的実習でゲームエンジンについて習得する事を目標とする。 実制作を通してゲームエンジンを用いたコンテンツ制作の流れを理解し、発展的な技術を身につける。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Unity					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		授業内容の説明と環境構築		
	2	環境アート		環境アートの構成要素とモジュラーアセット		
	3	ホワイトボクシング		メトリクスとスケールフィギュア		
	4	課題制作		個別指導 環境アートの制作		
	5	課題制作		個別指導 環境アートの提出		
	6	プログラムを考える手法		分解・抽象化・アルゴリズム		
	7	C#の基本		変数とメソッド		
	8	課題制作		個別指導 クイズゲームの提出		
	9	C#によるオブジェクトの制御		基本クラスとアクセス修飾子		
	10	課題制作		個別指導 アドベンチャーゲームの制作		
	11	課題制作		個別指導 アドベンチャーゲームの制作		
	12	課題制作		個別指導 アドベンチャーゲームの制作		
	13	前期期末		個別指導 アドベンチャーゲームの提出		
	14	前期フィードバック		個別フィードバック		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ゲームエンジン実習Ⅱ		指導担当者名	溝井 光司		
実務経験	有	ゲームアプリ制作業務に従事、9年目継続中				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ゲームエンジンの応用的実習でゲームエンジンについて習得する事を目標とする。 実制作を通してゲームエンジンを用いたコンテンツ制作の流れを理解し、発展的な技術を身につける。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Unity					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授 業 計 画 後 期	15	クラスとアニメーション		クラスを活用したプログラムとアニメーションの制御		
	16	データを扱う		スクリプタブルオブジェクトとファイルの読み書き		
	17	課題制作		個別指導 ターン制バトルの制作		
	18	課題制作		個別指導 ターン制バトルの制作		
	19	課題制作		個別指導 ターン制バトルの提出		
	20	キャラクター制御		3人称アクションゲームのキャラクター制御プログラム		
	21	レベルデザイン1		ワークフローとプリプロダクション		
	22	レベルデザイン2		フロアプランとフロー		
	23	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	24	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	25	プレイテスト		プレイテストの実施とフィードバックの分析		
	26	課題制作		個別指導 3人称アクションゲームの制作		
	27	後期期末		個別指導 ゲームの提出		
	28	後期フィードバック		個別フィードバック		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	描画実習Ⅱ		指導担当者名	服部 真奈美		
実務経験	有	アニメ制作業務に32年間従事、現在はフリーで継続				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	人物の骨格や筋肉の付き方を学び、様々な人物描写が出来るようにする TVアニメで使用している様々な表現方法(2Dで奥行きを感じさせるテクニック)を学び、映像を作ってみる					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	①静物、石膏デッサンの写真モチーフ(フリー素材利用)②A.ルームス絵画技法書③ADアニメ表現についてはオリジナルテキスト					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		授業内容説明。カメラワークについて		
	2	絵コンテ		絵コンテ用紙の構成と描き方		
	3	絵コンテ		絵コンテ作成		
	4	絵コンテ		絵コンテ作成		
	5	絵コンテとレイアウト		絵コンテ作成。レイアウト用紙の構成と描き方		
	6	レイアウト		レイアウト作成		
	7	レイアウト		レイアウト作成		
	8	タイムシート		タイムシートの構成と書き方		
	9	タイムシート		絵コンテの各カットのタイムに合わせて、タイムシーセリフや芝居のタイミングを記入する		
	10	タイムシート		絵コンテの各カットのタイムに合わせて、タイムシーセリフや芝居のタイミングを記入する		
	11	ラフ原画		タイムシートに則ってラフ原画を描く		
	12	ラフ原画		タイムシートに則ってラフ原画を描く		
	13	ラフ原画		タイムシートに則ってラフ原画を描く		
	14	ラフ原画		タイムシートに則ってラフ原画を描く		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	描画実習Ⅱ		指導担当者名	服部 真奈美		
実務経験	有	アニメ制作業務に32年間従事、現在はフリーで継続				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	人物の骨格や筋肉の付き方を学び、様々な人物描写が出来るようにする TVアニメで使用している様々な表現方法(2Dで奥行きを感じさせるテクニック)を学び、映像を作ってみる					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	①静物、石膏デッサンの写真モチーフ(フリー素材利用)②A.ルームス絵画技法書③ADアニメ表現についてはオリジナルテキスト					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	背景		レイアウトを元に背景を作成する(ラフでOK)		
	16	背景		レイアウトを元に背景を作成する(ラフでOK)		
	17	背景		レイアウトを元に背景を作成する(ラフでOK)		
	18	背景		レイアウトを元に背景を作成する(ラフでOK)		
	19	原画		ラフ原を元に原画作成		
	20	原画		ラフ原を元に原画作成		
	21	原画		ラフ原を元に原画作成		
	22	原画		ラフ原を元に原画作成		
	23	原画		原画作成。タイムシートの最終確認		
	24	原画		原画作成。タイムシートの最終確認		
	25	原画&編集		作成した原画と背景を合わせ、タイムシートに則って動画に編集する		
	26	編集		作成した原画と背景を合わせ、タイムシートに則って動画に編集する		
27	編集		作成した原画と背景を合わせ、タイムシートに則って動画に編集する			
28	編集		作成した原画と背景を合わせ、タイムシートに則って動画に編集する			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習Ⅱ		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：		演習：	実習：○	実技：
年間時間数	168 時間			週時間数	6 時間
学習到達目標	3DCGの応用的実習で3DCGについて習得する事を目標とする。 〈通年〉作品の制作スピード、クオリティの向上を目標とする。 〈前期〉Substance3DPainter、Autodesk Mudboxの基本を学習し、新しい表現が出来るようになることを目標とする。 〈後期〉Mayaと連携した制作を行い、クオリティの高い作品が出来ることを目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・Autodesk Maya、Mudbox、AdobeCC Photoshop、Substance3DPainter・webの画像				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション、3Dテクスチャペイント①		Substance3DPainterの機能1	
	2	3Dテクスチャペイント②		Substance3DPainterの機能2	
	3	3Dテクスチャペイント③		基本ツールの習得	
	4	3Dテクスチャペイント④		基本ツールの習得	
	5	3Dテクスチャペイント⑤		基本ツールの習得	
	6	3Dテクスチャペイント⑥		基本ツールの習得	
	7	スカルプト①		Mudboxの基本機能①	
	8	スカルプト②		Mudboxの基本機能②	
	9	スカルプト③		基本ツールの習得	
	10	スカルプト④		基本ツールの習得	
	11	スカルプト⑤		基本ツールの習得	
	12	スカルプト⑥		基本ツールの習得	
	13	スカルプト⑦		基本ツールの習得	
	14	【前期期末制作】		レンダリング、CG画像とモデルを提出	
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習Ⅱ		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	168 時間		週時間数	6 時間	
学習到達目標	3DCGの応用的実習で3DCGについて習得する事を目標とする。 〈通年〉作品の制作スピード、クオリティの向上を目標とする。 〈前期〉Substance3DPainter、Autodesk Mudboxの基本を学習し、新しい表現が出来るようになることを目標とする。 〈後期〉Mayaと連携した制作を行い、クオリティの高い作品が出来ることを目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・Autodesk Maya、Mudbox、AdobeCC Photoshop、Substance3DPainter・webの画像				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	ハードサーフェスモデリング1	Substance3DPainer、Mudbox、Mayaなど各ソフトを使用・連携した制作		
	16	ハードサーフェスモデリング2	Substance3DPainer、Mudbox、Mayaなど各ソフトを使用・連携した制作		
	17	ハードサーフェスモデリング3	Substance3DPainer、Mudbox、Mayaなど各ソフトを使用・連携した制作		
	18	ハードサーフェスモデリング4	Substance3DPainer、Mudbox、Mayaなど各ソフトを使用・連携した制作		
	19	ハードサーフェスモデリング5	Substance3DPainer、Mudbox、Mayaなど各ソフトを使用・連携した制作		
	20	ライティング、レンダリング	ライト設定とレンダリング		
	21	テーマ制作1	テーマに沿ったアセット制作		
	22	テーマ制作2	テーマに沿ったアセット制作		
	23	テーマ制作3	テーマに沿ったアセット制作		
	24	テーマ制作4	テーマに沿ったアセット制作		
	25	テーマ制作5	テーマに沿ったアセット制作		
	26	テーマ制作6	テーマに沿ったアセット制作		
27	テーマ制作7	テーマに沿ったアセット制作			
28	【後期期末制作】	レンダリング、CG画像とモデル提出			
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅱ		指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・ポートフォリオの応用的実習でポートフォリオについて習得する事を目標とする。 ・ポートフォリオの基礎概念の習得。 ・ポートフォリオ用の作品制作の考え方の習得 ・ポートフォリオの基本的な枠の制作～ほぼ完成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	年間カリキュラムの説明	
	2	作品制作1	進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作	
	3	作品制作1中間発表	進捗発表	
	4	作品制作1	進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作	
	5	作品制作1 発表	作品を発表し、修正ポイントについてレビュー	
	6	作品制作2	進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作	
	7	作品制作2中間発表	進捗発表	
	8	作品制作2	進むべき作品の方向性に合わせて、自分で設定したテーマに応じて制作	
	9	作品制作2 発表	作品を発表し、修正ポイントについてレビュー	
	10	ポートフォリオまとめ	作品レイアウト	
	11	ポートフォリオまとめ	作品レイアウト	
	12	ポートフォリオまとめ	作品レイアウト	
	13	ポートフォリオ提出	ポートフォリオの提出	
	14	期末レビュー	前期制作ポートフォリオのレビュー	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅱ		指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・ポートフォリオの応用的実習でポートフォリオについて習得する事を目標とする。 ・ポートフォリオの基礎概念の習得。 ・ポートフォリオ用の作品制作の考え方の習得 ・ポートフォリオの基本的な枠の制作～ほぼ完成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	ポートフォリオ制作Ⅰ	作品制作とレイアウト	
	16	ポートフォリオ制作Ⅰ	作品制作とレイアウト	
	17	ポートフォリオ制作Ⅰ	作品制作とレイアウト	
	18	ポートフォリオ制作Ⅰ	作品制作とレイアウト	
	19	ポートフォリオ制作Ⅰ	作品制作とレイアウト	
	20	ポートフォリオ提出	レイアウトの上提出	
	21	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	22	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	23	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	24	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	25	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	26	ポートフォリオ制作Ⅱ	作品制作とレイアウト	
	27	期末提出	レイアウト、ポートフォリオ提出	
	28	期末レビュー	ポートフォリオレビュー	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	アナログイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	渡邊 惇基		
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴と自分にあった表現の特徴を理解し選び別けて使用できるようになること ・各種画材の特徴を活かしての表現が出来るようになること					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、cottマンハーフパン他					
授業外学習の方法	提出課題の制作					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		授業の概要説明・評価方法・画材確認		
	2	クロッキー		30秒～2分ドローイング、動きの把握		
	3	クロッキー		全身ポーズの理解		
	4	デッサン		モチーフを使って構図とあたり取り		
	5	デッサン		光源と陰影の配置		
	6	骨格構造		骨格図の模写(正面)		
	7	プロポーションの理解①		8頭身・6頭身などの基準理解		
	8	筋肉構造		上半身の主要筋の観察と描写		
	9	手・足の描き方①		骨構造を意識したスケッチ		
	10	顔・頭部		頭蓋骨ベースでの構造理解		
	11	ポーズ練習		全体のバランスを見る演習シルエットの整理と印象		
	12	陰影とトーン①		明暗の幅を理解する演習		
	13	着色		コピックの使い方と塗り分け		
	14	講評・まとめ		学んだ技術を活かして制作		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	アナログイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	渡邊 惇基	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴と自分にあった表現の特徴を理解し選び別けて使用できるようになること ・各種画材の特徴を活かしての表現が出来るようになること				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、cottマンハーフパン他				
授業外学習の方法	提出課題の制作				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	ガイダンス	前期の振り返り、後期の目標共有		
	16	構図	パースの基礎と応用		
	17	モチーフ表現①	静物(花・布など)を使った構成		
	18	モチーフ応用①	静物＋人物の融合構成		
	19	表情・動き	顔・身体に感情を込める練習		
	20	キャラクター制作	オリジナルキャラのコンセプト出し		
	21	キャラクター制作	鉛筆での線画制作		
	22	着色	限定色での塗りの工夫		
	23	作品仕上げ①	背景との統合・画面整理		
	24	講評・まとめ	完成作品を発表・相互評価		
	25	撮影と記録	作品をポートフォリオ用に撮影		
	26	自由制作	自由テーマによる構想		
	27	自由制作	清書～着色		
28	講評・まとめ	自由制作＋ポートフォリオ発表			
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習Ⅱ		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	・ポートフォリオに入れられる作品の完成を目標とする。 ＊：2,3年合同授業					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	コンテンツ制作継続					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	企画制作		日本ゲーム大賞向け企画制作		
	2	制作		日本ゲーム大賞向けアセット制作		
	3	中間発表		日本ゲーム大賞向けβ版ゲーム		
	4	デバッグ		ゲームデバッグ		
	5	コンペ出品		ゲーム完成		
	6	ラフ制作		ラフ制作		
	7	制作		夏をテーマとした、CG制作		
	8	提出		CG制作をレイアウトしたデータ		
	9	コンペ向け企画		企画制作、ラフ絵		
	10	中間チェック		制作物CGチェック		
	11	コンペ出品		データ提出		
	12	自主制作		企画、ラフ、絵コンテ		
	13	自主制作		実制作		
	14	期末試験		自主制作のプレゼン、データ提出		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習Ⅱ		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	・ポートフォリオに入れられる作品の完成を目標とする。 ＊：2,3年合同授業					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	コンテンツ制作継続					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	コンペ向け企画		企画制作、ラフ絵		
	16	中間チェック		制作物CGチェック		
	17	コンペ出品		データ提出		
	18	修了制作企画		修了制作(企画立案)		
	19	企画発表		企画書制作、発表		
	20	実制作		実制作		
	21	中間発表		実制作 中間発表		
	22	実制作		実制作		
	23	実制作		実制作		
	24	中間発表		実制作 中間発表		
	25	実制作		実制作		
	26	合評会		制作物の進捗発表会		
	27	実制作		実制作		
28	期末試験		実制作物のプレゼン、提出			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部 翔子	
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト				
授業外学習の方法	テキストの復習等				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的		
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの		
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者		
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)		
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権		
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物		
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護		
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物		
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係		
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは		
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害		
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作Ⅱ		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	180 時間		週時間数	時間
学習到達目標	・3年課程の2年生：2年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動についての実践的演習で、面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史		
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理		
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2		
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算		
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動についての実践的演習で、面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	22	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	23	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	24	個別指導1	書類添削、面接指導	
	25	個別指導2	書類添削、面接指導	
	26	個別指導3	書類添削、面接指導	
	27	個別指導4	書類添削、面接指導	
28	個別指導5	書類添削、面接指導		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅢ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅢ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルコンテンツ制作実習Ⅲ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	252 時間			週時間数	9 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	1年間かけて、CGを使った制作を実施する		
	2	制作コンテンツ企画	制作テーマの企画		
	3	企画発表	企画発表		
	4	コンテンツ制作	実制作		
	5	進捗確認発表会	制作物についての発表会		
	6	コンテンツ制作	実制作		
	7	合評会	合評形式での発表		
	8	コンテンツ制作	実制作		
	9	レビュー	テーマに応じて、改善ポイントのレビュー		
	10	コンテンツ制作	実制作		
	11	進捗確認発表会	制作物についての発表会		
	12	コンテンツ制作	実制作		
	13	コンテンツ制作	実制作		
	14	期末発表会	前期制作物の発表、提出		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルコンテンツ制作実習Ⅲ		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	252 時間		週時間数	9 時間	
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	企画確認会	後期制作物の企画確認		
	16	企画発表	企画発表		
	17	コンテンツ制作	実制作		
	18	進捗確認発表会	制作物についての発表会		
	19	コンテンツ制作	実制作		
	20	合評会	合評形式での発表		
	21	コンテンツ制作	実制作		
	22	レビュー	テーマに応じて、改善ポイントのレビュー		
	23	コンテンツ制作	実制作		
	24	進捗確認発表会	制作物についての発表会		
	25	コンテンツ制作	実制作		
	26	コンテンツ制作	実制作		
	27	期末発表会	前期制作物の発表、提出		
28	最終合評会	各自研究テーマについて発表、相互レビュー			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅲ		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：○		演習：	実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	〈通年〉CGARTS協会 CGクリエイター検定エキスパートの合格を目標とする。 〈前期〉ベーシックより深くCGの知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・CGARTS協会 デジタル映像表現・CGARTS協会 問題集				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション、第1章①		実写撮影〈動画撮影の基礎1〉	
	2	第1章②		実写撮影〈動画撮影の基礎2〉	
	3	第2章		映像編集〈映像編集の基礎～映像と音の演出〉	
	4	定期試験、第3章①		モデリング〈モデリングの基礎〉	
	5	第3章②		モデリング〈モデリング手法～モデリングの実際〉	
	6	第4章		リギング〈リギングの基礎～リギングの実際〉	
	7	定期試験、第5章①		CGアニメーション〈CGアニメーションの基礎～CGアニメーションの手法〉	
	8	第5章②		CGアニメーション〈キャラクターアニメーション～CGアニメーションの実際〉	
	9	第6章①		シーン構築〈マテリアル表現～レンダリング〉	
	10	第6章②		シーン構築〈合成(コンポジット)〉	
	11	定期試験、第7章		リアルタイムCG〈リアルタイムCGの基礎〉	
	12	第8章、第9章		プロダクションワーク〈作品制作におけるプロダクションワーク〉、著作権	
	13	【期末模擬問題】		テキスト全体の復習のための小テスト	
	14	【前期期末試験】		テキスト全体を範囲として期末試験	
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅲ		指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	〈通年〉CGARTS協会 CGクリエイター検定エキスパートの合格を目標とする。 〈前期〉ベーシックより深くCGの知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・CGARTS協会 デジタル映像表現・CGARTS協会 問題集				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	前期復習	テキスト全体を総復習		
	16	2019年前期問題	過去問題回答と解説		
	17	2019年後期問題	過去問題回答と解説		
	18	2020年後期問題	過去問題回答と解説		
	19	2017年後期	過去問題回答と解説		
	20	2021年前期問題	過去問題回答と解説		
	21	2018年後期問題	過去問題回答と解説		
	22	2018年前期問題	過去問題回答と解説		
	23	2021年前期問題	過去問題回答と解説		
	24	2021年後期問題	過去問題回答と解説		
	25	2022年前期問題	過去問題回答と解説		
	26	2022年後期問題	過去問題回答と解説		
	27	個別指導	個人別弱点特攻授業		
	28	直前模試			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	過去問題復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	現状のポートフォリオの合評		
	2	第1章 Wordの基礎知識1	Step1 Wordの概要Step2 Wordを起動するStep3 文書を開く		
	3	第1章 Wordの基礎知識2	Step4 Wordの画面構成Step5 文書を閉じるStep6 Wordを終了する		
	4	第2章 文字の入力2	Step1 新しい文書を作成するStep2 IMEを設定するStep3 文字を入力する		
	5	第2章 文字の入力3	Step4 文字を変換するStep5 文章を変換するStep6 文書を保存する		
	6	第3章 文書の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ページのレイアウトを設定するStep3 文章を入力する		
	7	第3章 文書の作成2	Step4 範囲を選択するStep5 文字を削除・挿入するStep6 文字をコピー→移動するStep7 文章の体裁を整えるStep8 文書を印刷する		
	8	第3章 文書の作成3	練習問題		
	9	第4章 表の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 表を作成するStep3 表の範囲を選択する		
	10	第4章 表の作成2	Step4 表のレイアウトを変更するStep5 表に書式を設定するStep6 表にスタイルを適用するStep7 水平線を挿入する		
	11	第4章 表の作成3	練習問題		
	12	第5章 グラフィック機能の利用1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ワードアートを挿入するStep3 画像を挿入する		
	13	第5章 グラフィック機能の利用2	Step4 文字の効果を設定するStep5 ページ罫線を設定する練習問題		
	14	Word試験	外部受験		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	第1章 Excelの基礎知識1	Step1 Excelの概要Step2 Excelを起動するStep3 ブックを開くStep4 Excelの画面構成	
	16	第1章 Excelの基礎知識2	Step5 ブックを操作するStep6 ブックを閉じるStep7 Excelを終了する	
	17	第2章 データの入力1	Step1 新しいブックを作成するStep2 データを入力するStep3 データを編集するStep4 セル範囲を選択するStep5 ブックを保存するStep6 オートフィルを利用する	
	18	第2章 データの入力2	練習問題	
	19	第3章 表の作成1	Step1 作成するブックを確認するStep2 関数を入力するStep3 セルを参照するStep4 表にレイアウトを設定する	
	20	第3章 表の作成2	Step5 データを装飾するStep6 配置を調整するStep7 列の幅を変更するStep8 行を挿入・削除するStep9 表を印刷する	
	21	第3章 表の作成3	練習問題	
	22	第4章 グラフの作成1	Step1 作成するグラフを確認するStep2 グラフ機能の概要Step3 円グラフを作成するStep4 縦棒グラフを作成する	
	23	第4章 グラフの作成2	練習問題	
	24	第5章 データベースの利用1	Step1 操作するデータベースを確認するStep2 データベース機能の概要Step3 データを並べ替えるStep4 データを抽出する	
	25	第5章 データベースの利用2	練習問題	
	26	過去問題1	MOS模試1	
	27	過去問題2	MOS模試2	
28	Excel試験	外部受験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習Ⅲ			指導担当者名	大槻 晃士	
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	〈通年〉アニメーション、作品クオリティの向上を目標とする。 〈前期〉リギングのセットアップ、アニメーションを制作し、アニメーションの基本的な動きや表現ができることを目標とする。 〈後期〉実際の制作に則った仕様書をもとに作品制作を行うことを目標とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・Autodesk Maya、Mudbox、AdobeCC Photoshop、Substance3DPainter・webの画像					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション、キーフレームアニメーション1			プリミティブを使用したアニメーション	
	2	キーフレームアニメーション2			プリミティブを使用したアニメーション	
	3	リギング1			ジョイントの作成、リネーム、ペアレント	
	4	リギング2			ジョイントの方向付け	
	5	リギング3			ジョイントの方向付け	
	6	リギング4			ウェイトペイント	
	7	リギング5			ウェイトペイント	
	8	キャラクターモーション1			基本的な動きの作成	
	9	キャラクターモーション2			基本的な動きの作成	
	10	キャラクターモーション3			基本的な動きの作成	
	11	キャラクターモーション4			基本的な動きの作成	
	12	キャラクターモーション5			基本的な動きの作成	
	13	キャラクターモーション6			基本的な動きの作成	
	14	【前期期末制作】			レンダリング、制作物の提出	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	3DCG実習Ⅲ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	〈通年〉アニメーション、作品クオリティの向上を目標とする。 〈前期〉リギングのセットアップ、アニメーションを制作し、アニメーションの基本的な動きや表現ができることを目標とする。 〈後期〉実際の制作に則った仕様書をもとに作品制作を行うことを目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・Autodesk Maya、Mudbox、AdobeCC Photoshop、Substance3DPainter・webの画像				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	仕様に沿った制作1	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	16	仕様に沿った制作2	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	17	仕様に沿った制作3	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	18	仕様に沿った制作4	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	19	仕様に沿った制作5	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	20	仕様に沿った制作6	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	21	仕様に沿った制作7	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	22	仕様に沿った制作8	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	23	仕様に沿った制作9	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	24	仕様に沿った制作10	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	25	仕様に沿った制作11	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	26	仕様に沿った制作12	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
	27	仕様に沿った制作13	仕様書に沿った実践的なモデル制作		
28	【後期期末制作】	レンダリング、CG画像とモデル提出			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅲ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。 * : 2,3,4年生合同授業				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	2	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	3	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	4	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	5	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	6	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	7	ポートフォリオ中間提出		中間提出	
	8	ポートフォリオ中間レビュー		中間レビュー	
	9	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	10	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	11	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	12	ポートフォリオ制作		作品制作とレイアウト	
	13	ポートフォリオ提出		ポートフォリオ3年前期バージョン提出	
	14	期末試験フィードバックレビュー		レビュー	
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅲ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。 * : 2,3,4年生合同授業				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 後 期	15	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	16	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	17	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	18	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	19	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	20	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	21	ポートフォリオ中間提出	中間提出		
	22	ポートフォリオ中間レビュー	中間レビュー		
	23	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	24	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	25	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	26	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	27	ポートフォリオ提出	ポートフォリオ3年後期バージョン提出		
	28	期末試験フィードバックレビュー	レビュー		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習Ⅲ		指導担当者名	仲井　ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84　時間			週時間数	3　時間	
学習到達目標	・ポートフォリオに入れられる作品の完成を目標とする。 ＊：2,3年合同授業					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	コンテンツ制作継続					
学期	ターム	項　目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	企画制作		日本ゲーム大賞向け企画制作		
	2	制作		日本ゲーム大賞向けアセット制作		
	3	中間発表		日本ゲーム大賞向けβ版ゲーム		
	4	デバッグ		ゲームデバッグ		
	5	コンペ出品		ゲーム完成		
	6	ラフ制作		ラフ制作		
	7	制作		夏をテーマとした、CG制作		
	8	提出		CG制作をレイアウトしたデータ		
	9	コンペ向け企画		企画制作、ラフ絵		
	10	中間チェック		制作物CGチェック		
	11	コンペ出品		データ提出		
	12	自主制作		企画、ラフ、絵コンテ		
	13	自主制作		実制作		
	14	期末試験		自主制作のプレゼン、データ提出		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習Ⅲ		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	・ポートフォリオに入れられる作品の完成を目標とする。 ＊：2,3年合同授業					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	コンテンツ制作継続					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	コンペ向け企画		企画制作、ラフ絵		
	16	中間チェック		制作物CGチェック		
	17	コンペ出品		データ提出		
	18	修了制作企画		修了制作(企画立案)		
	19	企画発表		企画書制作、発表		
	20	実制作		実制作		
	21	中間発表		実制作 中間発表		
	22	実制作		実制作		
	23	実制作		実制作		
	24	中間発表		実制作 中間発表		
	25	実制作		実制作		
	26	合評会		制作物の進捗発表会		
	27	実制作		実制作		
28	期末試験		実制作物のプレゼン、提出			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作Ⅲ		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制3年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	180 時間		週時間数	時間
学習到達目標	・卒業生：2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅳ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史		
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理		
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2		
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算		
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅳ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	21	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	22	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	23	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	24	個別指導1	書類添削、面接指導		
	25	個別指導2	書類添削、面接指導		
	26	個別指導3	書類添削、面接指導		
	27	個別指導4	書類添削、面接指導		
	28	個別指導5	書類添削、面接指導		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅣ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅣ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルコンテンツ制作実習Ⅳ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	504 時間			週時間数	18 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション、ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	CG作品制作についてのオリエンテーション、進路に合わせそれぞれ制作		
	2	ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	進路に合わせそれぞれ制作		
	3	ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	進路に合わせそれぞれ制作		
	4	ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	進路に合わせそれぞれ制作		
	5	ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	進路に合わせそれぞれ制作		
	6	ポートフォリオ用作品制作Ⅰ	進路に合わせそれぞれ制作		
	7	進捗確認	作品について合評会		
	8	ポートフォリオ用作品制作Ⅱ	進路に合わせそれぞれ制作		
	9	ポートフォリオ用作品制作Ⅱ	進路に合わせそれぞれ制作		
	10	ポートフォリオ用作品制作Ⅱ	進路に合わせそれぞれ制作		
	11	ポートフォリオ用作品制作Ⅱ	進路に合わせそれぞれ制作		
	12	ポートフォリオ用作品制作Ⅱ	進路に合わせそれぞれ制作		
	13	作品提出	制作物の提出(期末扱い)		
	14	作品フィードバック	前期制作物の発表、提出、レビュー		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルコンテンツ制作実習Ⅳ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	504 時間			週時間数	18 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	16	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	17	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	18	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	19	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	20	ポートフォリオ用作品制作Ⅲ	進路に合わせそれぞれ制作		
	21	進捗確認	作品について合評会		
	22	ポートフォリオ用作品制作Ⅳ	進路に合わせそれぞれ制作		
	23	ポートフォリオ用作品制作Ⅳ	進路に合わせそれぞれ制作		
	24	ポートフォリオ用作品制作Ⅳ	進路に合わせそれぞれ制作		
	25	ポートフォリオ用作品制作Ⅳ	進路に合わせそれぞれ制作		
	26	ポートフォリオ用作品制作Ⅳ	進路に合わせそれぞれ制作		
	27	作品提出	制作物の提出(期末扱い)		
	28	作品フィードバック	後期制作物の発表、提出、レビュー		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅳ			指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。 *：2,3,4年生合同授業				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	・制作ツール				
授業外学習の方法	自宅での実習復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	2	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	3	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	4	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	5	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	6	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	7	ポートフォリオ中間提出	中間提出		
	8	ポートフォリオ中間レビュー	中間レビュー		
	9	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	10	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	11	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	12	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト		
	13	ポートフォリオ提出	ポートフォリオ3年前期バージョン提出		
	14	期末試験フィードバックレビュー	レビュー		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅳ		指導担当者名	大槻 晃士
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・各自希望業種に向けた作品集(ポートフォリオ)の完成を目標とする。 * : 2,3,4年生合同授業			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	自宅での実習復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	16	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	17	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	18	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	19	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	20	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	21	ポートフォリオ中間提出	中間提出	
	22	ポートフォリオ中間レビュー	中間レビュー	
	23	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	24	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	25	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	26	ポートフォリオ制作	作品制作とレイアウト	
	27	ポートフォリオ提出	ポートフォリオ3年後期バージョン提出	
28	期末試験フィードバックレビュー	レビュー		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	AI概論		指導担当者名	橋本 若奈		
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	近年注目されている「人工知能(AI)」について、基礎知識、しくみについて学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション, 第1章		AIの概要(人工知能:AIの定義、研究範囲、得意分野など)		
	2	第2章①		AIの歴史(第1次～第3次AIブーム)		
	3	第2章②, 定期試験		様々なAIとこれからのAI		
	4	第3章、第4章		AI分野の問題、AIの関連知識		
	5	第5章		機械学習		
	6	定期試験, 第6章		深層学習		
	7	第7章		深層学習の種類		
	8	第8章①		産業への応用、AI社会の実現に向けて		
	9	第8章②		産業への応用、AI社会の実現に向けて		
	10	定期試験, 第9章		知的財産権		
	11	第10章①		基礎数学		
	12	第10章②		基礎数学		
	13	【期末模擬問題】		各章の復習のためのテスト		
	14	【前期期末試験】		全体を範囲として期末試験		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	AI概論		指導担当者名	橋本 若奈		
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事				
開講時期	通年		対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	近年注目されている「人工知能(AI)」について、基礎知識、しくみについて学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・制作ツール					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	オリエンテーション, 模擬問題		模擬問題回答と解説		
	16	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	17	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	18	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	19	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	20	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	21	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	22	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	23	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	24	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	25	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	26	模擬問題		模擬問題回答と解説		
	27	模擬問題		模擬問題回答と解説		
28	【後期期末試験】		全体を範囲として期末試験			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	ゲーム・CG科4年制4年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	180 時間		週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				